

## 空母と現代戦争

人民網 20110414 ソース：人民網一軍事チャンネル

人民網北京 4月14日電

4月14日、著名な軍事専門家である尹卓少将は、人民網の強国論壇に登場し、ホットな話題である“空母と現代戦争”について読者とネット上で質疑応答を行った。同少将は、空母ワリヤグが数十年前の性能水準であること等、あらゆる方面から意見を述べた。

“ワリヤグ号は、ロバに非ず、馬に非ず、ラバである”

旧ソ連の指導者と海軍将領は、1962年の“キューバミサイル危機”以後、空母の重要性について共通認識を持った。その後旧ソ連は、1980年代に、正しい意味での中型空母の開発に着手した。具体的には、ウクライナ国内にあるニコラエフ造船所が建造を担当した。旧ソ連が解体された時期、ニコラエフ造船所は、空母“クズネツオフ号”の建造を完了し、同空母はロシア海軍に帰属することになった。しかし2番艦“ワリヤグ号”は70%しか完成しておらず、武器システム及び指揮管制システムは未装備であり、空母のドンガラに過ぎなかった。ウクライナ海軍は空母を必要とせず、当時のロシア海軍は引き続き建造費を支払う力はなかった。ウクライナ政府は1999年、同空母を譲渡しようとした。

同少将は、「“ワリヤグ号”の設計は、当時の旧ソ連の作戦能力を根拠にしており、大まかに言えば、“ロバに非ず、馬に非ず”である。その理由は、ワリヤグ号は大型の巡洋艦として建造され、その上に航空機搭載艦としての機能を付加したので旧ソ連は同号を航空機搭載巡洋艦と命名している。我々は、“ロバに非ず、馬に非ず”ラバと呼称している。単艦での作戦能力は、対艦能力、区域防空管制能力、自艦からの航空機発着艦能力があり、自ら対潜ヘリも搭載している。すなわちこの空母は、實際上全てが精密でなく、装備は雑多である。したがって6万トン以上の大型艦艇であるのに、動力は原子力でなく蒸気タービンである」と述べた。

同少将は、「遠海作戦における同艦への補給は極めて困難である。なぜならば同艦のボイラーで焚く燃料は極めてやりにくい。ボイラーは重油を燃やし、随行する艦艇が燃やすのはディーゼル油とガスタービン油である。ディーゼル油と重油、一艘の補給艦が多種類の燃料を搭載することは、後方支援上極めて複

雑な要素をもたらす。ワリヤグ号は 8 個の大型ボイラーがあり、極めて燃費が悪い。特に航空機の離発着時は速度を上げるため燃料消費が大きく、海上補給を頻繁に行わなければならない。海上補給の間は、航空機の離発着はできないため、空中掩護が留守になる。発艦も着艦もできない航空機が甲板上にあり、空母の重油補給は時間がかかる。空母はおおむね 4 乃至 5000 トンの燃料を搭載する。一この数字は正確ではないが、当時このように設計された。燃料は加圧して送れば給油時間が短縮できると諸君は思うかもしれない。又その他の艦艇にもディーゼル油或いはケロシン油を補給する。ガスタービンエンジンは、燃料の補給パイプが異なるので海上での燃料補給は極めて複雑であり、近傍で他の艦艇が燃料補給している場合は武器発射が出来ない。なぜならば、容易に引火爆発するからである。事故の発生は、空母艦隊の作戦能力に大きな影響を与える。空母編隊に対する燃料補給は、少なくとも 8 乃至 12 時間を要し、その間は作戦能力がない」と述べた。

同少将は、「“ワリヤグ号”の大きな失敗は、スキージャンプ式離陸方式を採用したことであり、その結果、探知機能だけでなく、主として空中において作戦機を指揮する指揮所の役目をし、作戦機に代わって目標指示を行い、作戦機を有利な位置に誘導し、敵機の予想位置を知らせる機能を持つ早期警戒機が搭載出来なかった。早期警戒ヘリは、實際上早期警戒機ではない。

我々は、早期警戒ヘリの飛行高度が 4000m であることを知っている。早期警戒機の飛行高度は 9000m から 10000m であり、両者には高度差がある。早期警戒ヘリは、高空の管制能力は無い。なぜならば、レーダーを上向きに出来ず、傾斜角が極めて狭いからである。わずか 2 度少々であり、作戦機が 8 乃至 9000m の高空から来た場合、早期警戒能力はない。早期警戒ヘリは、単に海面上の低空飛行目標に対してのみ一定の早期警戒能力がある。機体が小さく、レーダーも他の早期警戒機に比べると小さく出力が低い。このようであれば、ワリヤグ号の潜在力が制約される。早期警戒ヘリは、一般に母艦から 50 乃至 100km 離れた位置にいるが、早期警戒機は母艦から 150 乃至 300km まで進出することができる。早期警戒ヘリの警戒面積は早期警戒機の半分以下である」と述べた。

“紀元 2070 年までは、空母の必要性は不変である”

同少将は、「空母の開発は、核兵器の開発とは関係がない。例を挙げれば、旧ソ連と英国は継続して空母を開発しており、フランスは冷戦時期に自力で空母を開発し、イタリア、スペインも空母を開発した。第二次大戦終結後 60 年以上経

つが、空母の重要性は変わらない。

核兵器は空母の開発を阻害しない。その根本理由は、核兵器は戦場で輕易に使用することが出来ないからである。一旦核兵器を使用すると、人類の一部を消滅させ、核兵器を使用した人は、人類に対する犯罪者になるからである。

空母と核兵器を平行して開発することは、道理に反しない。二者は、同時に開発することができる。第二次大戦以後、朝鮮戦争やベトナム戦争など高強度の局地戦争があった。米国は、圧倒的に多い核兵器を有し、比較できない程の核優勢を保持していたが、見事に敗れた。このことは、核兵器が通常兵器による戦争の勝敗を決定するものでないことを証明している。しかし空母は、通常兵器による戦争においても機能させることが出来る。予見できる紀元 2070 年までは、戦場において使用できる武器のなかで、空母は依然として主要な構成要素である」と述べた。

“中国が空母を保有することは、世界平和にとって有利である”

同少将は、「中国は防御型戦略を堅持し、人民海軍も防御型である。中国は、周辺環境、国家主権及び領土保全に関心を持っている。これは、中国の海上防御の重要な問題である。もし中国海軍力がさらに強大になれば、我々の兵力構造がさらに合理的になり、戦争が起きる可能性が小さくなる。中国は、主動的に他国に進攻することはなく、他国が中国に進攻するのを抑制することが出来、戦争発生確率は低くなる。

中国の経済発展は世界的に極めて重要である。現在、中国の経済発展は、世界経済の発展に対する貢献率が極めて高い。中国は、十数パーセントの成長率を占めることによって、世界人民に対する福音となっている」と述べた。

編集責任者：李楊洋

以上